

2018年

# 6月人権一口講座



## 一日でも早い帰国を願って

最近、ニューヨークでは北朝鮮に関する話題が多く取り上げられています。北朝鮮は、核実験場の廃棄とミサイルの実験中止を表明するなど、これまでの方針を修正するとともに、韓国との首脳会談を行い、史上初の北朝鮮と米国との首脳会談も予定されています。北朝鮮をめぐる動きは活発化しており、このかけはし6月号が皆さんのお手元に届いた頃には大きな進展があつているのかもしれませんが。

このような動きの中、四月三十日にある日本人団が訪米し、アメリカ政府と会談しました。それは、北朝鮮当局によって拉致された被害者の家族です。米朝首脳会談を控える米政府に拉致被害者問題解決への協力を要請するためです。ご家族は、大きな手ごたえも感じ、帰国されました。

北朝鮮当局による拉致とは、一九七〇年代から八〇年代にかけて多くの日本人が不自然な形で行方不明になり日本の当局による調査や亡命北朝鮮工作員の証言により北朝鮮による拉致の疑いが濃厚であることが明らかになりました。頑なに否定していた北朝鮮も平成十四年の日朝首脳会談で拉致を認め、五人は帰国しましたが、その他の方の帰国は未だ果たせず、まだ解決には至っていません。わが国は北朝鮮に対し、すべての拉致被害者の安全確保と速やかな帰国を要求しています。

拉致は、人間の尊厳を踏みじり、人権及び基本的自由に対する重大な侵害です。もしも自分だったら、自分の家族だったらと考えてみてください。四十数年家族の消息がわからず、離れ離れなっている家族が日本にいることを知り、日本人として拉致問題に関心を持つ必要があるのではないのでしょうか。それが、この問題を解決するためにとっても大きな一歩となります。

北朝鮮の金委員長は、韓国の文大統領との会談で「日本と対話する用意がある」と表明したということです。北朝鮮をめぐる情勢は、樂觀視できないと思いますが、対話ムードを契機にすべての拉致被害者が帰国できる日がくることを心から望みたいと思います。(熊本市ふれあい文化センター広報紙「かけはし」より)



短いメッセージ

いれて「いいよ」 かして「いいよ」  
おしえて「いいよ」 「いいよ」ってうれしいな

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会のカレンダー 尾ノ上小学校 3年 宮本 優飛さんの作品より